



○教育活動推進テーマ 「みんなでつくる楽しい学校」

○教育活動スローガン 「目を掛け、声を掛け、心を掛けて育てる」

1 府中第六小学校の教育目標

☆自分で学べる子（知） 生涯を通して主体的に学び続けることができる子【課題設定・課題対応力】	☆は重点目標
○仲よく助け合う子（徳） 協力し合ってよりよい社会生活ができる子	【人間関係形成力】
○たくましい子（体） 困難に立ち向かう強い心と体をもつ子	【やりぬく力】

2 学校経営の基本理念

○明日が楽しみな学級・学年・学校経営を基盤に、「チーム府中第六小」で地域と共にある学校経営を行う。
○各主任を中心に自分の役割を実行し、組織貢献力を高め、人材育成と組織力を高める。

3 目指す学校像

「認め合い、高め合い、みんなでつくる 楽しい学校」
○一人一人がよりよい校風を受け継ぎ、誇りに思う学校をつくる
○互いのよさを認め合い、高め合う、あたたかな人間関係をつくる
○自ら考え、関わり合い、チャレンジして、明日が楽しみな学校をつくる

4 目指す教職員像

【府六プライド】
○明るく、あたたかく、協働し、学び続ける教職員

5 府中第五中学校区で目指す児童・生徒像

○自ら学び、考えることができる児童・生徒	○思いやりの心をもった心身ともに健康な児童・生徒
----------------------	--------------------------

6 中期的目標及び方策

① 確かな力を身に付けさせる学校 <ul style="list-style-type: none"> ・4つの視点を重視した児童主体の楽しく分かる授業の工夫 ・校内研究とOJTの充実による指導力の向上 ・反復学習、家庭学習、補足的学習の充実 ・外国語活動の充実によるコミュニケーション力の向上 	② 健やかな体を育む学校 <ul style="list-style-type: none"> ・体力や運動への関心・意欲の向上 ・心身の健康や安全に関する意識と生活習慣の向上 ・「東京2025デフリンピック」を契機とした手話やデフスポーツの実施 	③ 特別支援教育の理念を踏まえ 個を伸ばす学校 <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育体制の充実 ・支援計画に基づく計画的な特別支援教育の実施 ・個に応じた指導の充実
④ 豊かな心を育む学校 <ul style="list-style-type: none"> ・自他を大切にし、思いやりのある児童の育成 ・いじめ、不登校等の課題への即時・早期・組織的対応の充実 ・どの子にも分かる、守れる生活ルールへの指導の徹底 	⑤ 地域とともに子供を育む学校 <ul style="list-style-type: none"> ・府中版コミュニティ・スクールと創立70周年に向けた取組の推進 ・「ふるさと府中」に誇りをもつ児童の育成 	⑥ つながりのある学校 <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、保育園、中学校区の連携強化 ・たてわり班活動による異年齢集団での望ましい人間関係の育成 ・学校生活の積極的な情報発信

7 今年度の取組目標及び方策（☆重点目標）

（1）確かな力を身に付けさせる学校

① 4つの視点を重視した児童主体の楽しく分かる授業の工夫（☆重点目標）

「発見すること」「対話すること」「決定すること」「表現すること」の視点を重視した授業を充実させ、どの児童にも「分かる・できる」喜びを味わわせ、主体的に学習する態度を育てる。

全学級でタブレット端末やデジタル教科書を効果的に活用し、児童の興味・関心を高め、互いに学び合い、課題解決する効果的な授業づくりを推進する。

算数科の習熟度別少人数指導をはじめ、個に応じた基礎的・基本的な学習内容を定着させ、個別最適な学びを推進する。

成果目標	授業がよく分かるという児童85%以上〔結果○90%〕、「府中市立小・中学校のグランドデザイン」を基に授業改善に取り組んだ教員90%以上〔結果○100%〕
方策	主体的・対話的で深い学びの実施、タブレット端末やデジタル教科書を効果的に活用した指導の推進、算数科の習熟度別少人数指導・個別最適な学びの推進
成果	全教員が4つの視点に基づく授業改善やタブレット端末の効果的な活用を進め、児童のつまづきを把握しながら、基礎・基本の力を高める手だてを工夫した。
課題	学年間で教材研究や学習の進め方を共有し、相互観察やアドバイスを進め、分かりやすい授業を行うための学習指導力をさらに高める。

② 校内研究とOJTの充実による指導力の向上（☆重点目標）

校内研究テーマ「自立した学び手の育成—子どもが自分に合った学び方を選べる授業づくり—」を基に、低・中・高学年ブロックで研究授業を核とした授業研究と授業観察を推進する。指導教諭の授業参観を生かしたOJTや、学年間の交換授業を積極的に行わせ、児童理解と教員の指導力向上を図る。

成果目標	指導力の向上を実感する教員90%以上〔結果○100%〕、校内研究紀要の作成
方策	講師を招へいた研究授業の実施（年3回以上）、校外の授業参観とOJTの奨励
成果	各ブロックで、児童が自分に合った学び方を選べる授業づくりを進め、児童の学習意欲や学び方を高める指導の手だてを複数の教科で実践することができた。
課題	児童の学習意欲や学び方の実態把握をPDCAサイクルに位置付け、授業改善をさらに推進する。

③ 反復学習、家庭学習、補充的学習の充実（☆重点目標）

「eライブラリアドバンス」「東京ベーシック・ドリル」の活用、「詩の暗唱」や読書活動の充実、補充的な学習等の個に応じた指導を推進し、学力の向上を図る。「家庭学習週間」を設定し、家庭での予習・復習を見直し、学習習慣と学習内容の確実な定着を図る。

成果目標	学力向上の取組を評価する保護者80%以上〔結果○85%〕
方策	「eライブラリアドバンス」「東京ベーシック・ドリル」の活用、「詩の暗唱」や読書週間の充実、個に応じた指導の推進、家庭学習週間の設定
成果	「eライブラリアドバンス」、詩の暗唱、読書活動に全学年取り組み、言語活動を充実させた。97%の教員が家庭学習を工夫し、学習習慣の意識付けを図ることができた。
課題	家庭学習が定着した児童は72%である。さらなる定着が必要である。

④ 外国語活動の充実によるコミュニケーション力の向上

ALTと連携して、多様なアクティビティを取り入れた英語学習の指導を工夫し、「立川東京グローバルゲートウェイ（TGG）」での英語体験（第5学年）や「英語検定ESG（第6学年）」、「世界とつながる英語 Enjoy Week」の取組を生かして、英語学習への意欲の向上と英語によるコミュニケーションの充実を図る。

成果目標	英語学習の楽しさを実感する児童85%以上〔結果▼76%〕
方策	多様なアクティビティを取り入れた英語学習の工夫・改善、「TGG」や「英語検定ESG」、「世界とつながる英語 Enjoy Week」の効果的な取組
成果	外国語学習に進んで取り組んだ児童は76%だが、Enjoy WeekやALTとの交流には意欲的に参加した。多様なアクティビティを工夫した英語学習を行った。
課題	「TGG」や「英語検定ESG」と関連させ、外国語学習への意欲の向上を図る。

(2) 健やかな体を育む学校

① 体力や運動への関心・意欲の向上（☆重点目標）

校庭やアリーナを有効に活用し、体力調査結果を活用した授業改善、「ふちゅうロープチャレンジ」を中心とした体力向上の取組、外遊びの励行により、運動の楽しさを味わわせ、すすんで運動する態度を育む。

成果目標	進んで運動する児童80%以上〔結果○81%〕
方 策	体育の授業改善、「ふちゅうロープチャレンジ」を中心とした体力向上の取組、目標を設定して取り組む体力チャレンジ、外遊びの励行
成 果	走力や俊敏性など課題に合った授業改善を行い、高学年は体の動きを高める運動に主体的に取り組んだ。ロープチャレンジでは、途中記録を公開し、運動意欲を高めた。
課 題	校庭の広さなど課題もあるが、外遊びを奨励し、体育の授業改善を進める。

② 心身の健康保持増進に関する意識の向上と生活習慣の向上

熱中症予防対策を一層徹底するとともに、食物アレルギーの対応、「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣について意識を高める。東京都教育委員会発行のリーフレット等を活用した「がん教育」、学期ごとに設定する「ノーディスプレイデー」などを通して、児童の生活習慣の改善・向上を図る。

成果目標	生活習慣の定着について評価する保護者80%以上 〔結果：○きまり92%、○あいさつ84%、▼整理整頓43%、▼家庭学習70%〕
方 策	熱中症予防対策の充実、食育の推進、「ノーディスプレイデー」による生活習慣の見直し
成 果	熱中症予防対策や食物アレルギー対応を徹底し、家庭科と連携して食への関心を高める活動も計画的に行った。ノーディスプレイデーを年3回行い、意識向上を図った。
課 題	ノーディスプレイデーで個人の目標設定や振り返りを行い、効果的な取組にする。

③ 「東京2025デフリンピック」を契機とした手話やデフスポーツの実施（☆重点目標）

「未来へつなぐ府中2020レガシー」の取組に、「東京2025デフリンピック」を契機とした手話やデフスポーツを積極的に取り入れ、スポーツやよりよい生き方への関心を高める。

成果目標	手話やデフスポーツの啓発に努めた教員90%以上〔結果：▼81%〕
方 策	「未来へつなぐ府中2020レガシー」に関連した指導、全学年での手話の実施、「デフスポーツ」の実施
成 果	4年生がデフスポーツやサインエールについて他学年に発表を行ったほか、運動委員会もデフスポーツの啓発を行った。積極的に音楽に手話を取り入れ、全校で手話による校歌や集会の歌を歌い、関心を高めることができた。
課 題	手話の取組は進んだが、デフスポーツの体験を計画的に広げられなかった。

(3) 特別支援教育の理念を踏まえ個を伸ばす学校

① 特別支援教育体制の充実（☆重点目標）

特別支援教育コーディネーター(2名)を中心に、校内委員会を定期的・効果的に開催し、特別な支援を必要とする児童・保護者への支援方針や、外部相談機関、医療機関への連携・接続等の検討を行い、速やかな支援につなげる。

また、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、巡回相談等による専門職の助言や特別支援教育への理解を深める研修を生かし、個の特性に応じた教育活動や課題の改善を図る。

成果目標	自分のよさを実感する児童85%以上〔結果○88%〕
方 策	特別支援教育コーディネーターの2名体制、SCやSSW、巡回相談員等の有効活用、校内委員会の効果的な開催、特別支援教育の研修実施
成 果	月1回以上の校内委員会で支援方針を明確にし、支援員の配置や年度途中の入室、SCやSSWへつなぎ、支援の充実が図れた。
課 題	特別支援教育の手だてを向上させるため、研修や助言の活用を工夫していく。

② 支援計画に基づく計画的な特別支援教育の実施（☆重点目標）

支援が必要な児童への「学校生活支援シート」、「個別指導計画」を作成・活用し、学校と家庭で定期的に目標と手だてを共有しながら、個に応じた指導の充実を図る。学校支援員を適切に配置し、児童の学習や生活の課題改善が円滑に図れるようにする。

成果目標	支援計画に基づく計画的な特別支援教育に取り組んだ教員80%以上〔結果○100%〕
方 策	「学校生活支援シート」、「個別指導計画」の作成・活用、学校支援員の適切な配置
成 果	支援計画に基づき計画的に特別支援教育に取り組み、学校と家庭で目標と手だてを共有しながら、個に応じた指導を積み重ねることができた。
課 題	引き続き学校支援員と連携し、個に応じた関わりを工夫していく。

③ 個に応じた指導の充実

学級・学校環境のユニバーサルデザイン化を組織的に行い、特別支援教室ひばりの指導の充実、学級担任とひばりの特別支援教室巡回指導員、特別支援教室専門員等と連絡・相談を密に行い、個に応じた指導の充実を図る。

成果目標	3かけ（目・声・心）を徹底し、児童の変容を実感する教員80%以上〔結果○100%〕
方 策	学級・学校環境のユニバーサルデザイン化、特別支援教室ひばりの充実、担任・巡回指導教員等の連携強化、特別支援教育の理解・啓発の推進
成 果	六小ユニバーサルデザインを全教員が意識し、指導や環境の工夫、3かけ、ひばり教室との連携を心掛け、指導の手だてや児童のできることを増やすことができた。
課 題	学級・学校環境のユニバーサルデザイン化をどの学級でも推進する。

（4）豊かな心を育む学校

① 自他を大切にし、思いやりのある児童の育成（☆重点目標）

「人権教育プログラム」を基に、進んで気持ちのよい挨拶ができる指導や、教職員自ら全児童の氏名に「さん」を付けて呼ぶ等、温かな言葉遣いを徹底する。子供同士でも、相手を尊重した呼び方や話の聞き方を心がけさせ、自他を尊重する心情と態度を養う。「考え、議論する道徳授業」の充実により、豊かな心情や道徳的判断力・実践力の向上を図る。

成果目標	あいさつや丁寧な言葉遣いをしている児童85%以上〔結果▼79%〕
方 策	あいさつ習慣の定着と温かな言葉遣いの推進、望ましい学級集団の育成、「考え、議論する道徳授業」の充実
成 果	毎学期の「オアシス週間」であいさつの意識が高まり、あいさつを返す児童は多い。代表委員や学年の児童があいさつ運動に参加し、主体的な取組を促すことができた。
課 題	進んであいさつし、あいさつレベルを5まで高めること、友達同士で休み時間も思いやりのある言葉を使えるよう、さらに意識させていく。

② いじめ、不登校等の課題への即時・早期・組織的対応の実施（☆重点目標）

「府中第六小学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめを生まない、許さない学校づくりを進め、組織的に未然防止、早期発見、早期解決に努める。

「いじめに関するアンケート」、毎学期初めに行う「いじめ防止授業」、「SOSの出し方の授業」、タブレット端末を活用した「心の健康観察」、「人権月間」を中心に、教職員、保護者、地域と連携して早期発見・早期対応によるいじめの根絶を図る。

不登校は、長期化する前に保護者と連携し、SSWによる継続的な支援やサポートルームを活用しながら、未然防止と早期解消、きめ細かな登校支援に努める。年度途中から、不登校等の保護者が話しやすい会を設定し、支援のつながりを感じられるようにする。

成果目標	楽しく学校に通っている児童85%以上〔結果▼82%〕
方 策	「府中第六小学校いじめ防止基本方針」に基づく取組の推進、いじめ防止授業・生命尊重教育の充実、タブレット端末を活用した「心の健康観察」、サポートルーム、保護者の会等によるきめ細かな登校支援
成 果	いじめや仲間はずれをせず、仲よく生活していると回答した児童は90%である。「心の健康観察」やアンケートによるいじめの早期発見、学校いじめ対策委員会による早期解決を図った。サポートルームやSSWを活用し、個別の支援を進めることができた。
課 題	学校生活が楽しいと感じられる児童が増えるように努め、いじめの根絶を図る。

③ どの子にも分かる、守れる生活ルールの指導の徹底

新校舎に即したきまりを見直し、「みんなのきまり」を基に教職員全員で統一した指導を行い、週ごとの振り返りや月ごとの重点目標による指導の徹底、毎学期の児童の振り返り等により定着させる。また、情報モラルの指導を計画的に繰り返し行う。

成果目標	「みんなのきまり」が守れたと感じる児童 85%以上 [結果○88%]
方 策	チャイム着席・廊下階段歩行・整理整頓・丁寧な清掃指導の充実、生活指導夕会による指導状況の確認と徹底、情報モラルの計画的な指導
成 果	「みかん週間」や月毎の生活指導の取組により、新校舎の過ごし方やきまりを意識し、学校をきれいに使おうとする気持ちを育てることができた。
課 題	中央階段やみんなのホールなど、静かに右側を歩行する意識がまだ定着していない。いつでもどこでもマナーに気を付けることや情報モラルについても意識を高めていく。

(5) 地域とともに子供を育む学校

① 府中版コミュニティ・スクールと創立 70 周年に関わる取組の推進 (☆重点目標)

定期的に「スクールコミュニティ協議会」を実施し、地域人材やPTA、おやじの会等との協働によりネットワーク型学校経営システムを構築し、キャリア教育の充実、漢字・算数検定、防災キャンプ、地域懇談会などを実施し、学校の教育力を高める。

11月の創立70周年記念行事に向けて代表委員会、実行委員会を中心に、学校の歴史や伝統、これまで府中第六小学校に関わってきた人たちの思いやよさを実感できる児童の願いに基づいた取組を工夫し、学校への愛着と誇りを醸成する。

成果目標	保護者・地域との連携による学校経営を評価する保護者 85%以上 [結果：○楽しい90%、○安全93%、○まちへの愛着85%]
方 策	定期的な「スクールコミュニティ協議会」の開催、地域人材やPTA、おやじの会等との協働、児童の願いに基づく70周年行事の実施
成 果	年間を通して創立70周年行事を行い、学校の歴史やよさを発見・表現し、関わりを大切に未来へつなげる様々な活動を工夫することができた。 コミュニティ協議会委員と教員との熟議、PTA、おやじの会との連携でキャリア教育、農園活動、各種検定、防災キャンプなど質の高い取組ができた。
課 題	目指す学校の姿を児童に主体的に考えさせ、「スクールコミュニティ協議会」やPTA、おやじの会と連携し、教育活動の充実を進める。

② 「ふるさと府中」に誇りをもつ児童の育成 (☆重点目標)

地域の自然環境や教育資源等を有効活用し、教科横断的な学習、体験活動、言語活動の一層の充実を図り、自ら課題を見付け、考え、主体的に判断し、よりよく課題を解決していく資質や能力を育成する。また、地域の人々に関わる機会を数多く設定し、地域貢献しようとする意識と実践意欲を高め、取組を広く発信する。

成果目標	まちのよさを知り、愛着をもつ児童 80%以上 [結果○90%]
方 策	全学年における「ふるさと学習」及びSDGSと関連付けた学習の推進、学校農園を活用した栽培学習、「郷土府中に根ざした道徳資料集」の活用
成 果	道徳授業地区公開講座、学習発表会の「ふるさと学習」等でまちのよさに気付き大切にする児童は90%、「ふるさと学習」を工夫した教員は100%で取組が充実した。
課 題	今後も「ふるさと学習」やSDGSと関連付け、地域のためにできることを考え、行動できる学習を工夫・推進する。

(6) つながりのある学校

① 幼稚園、保育園、中学校区の連携強化

幼稚園や保育園との情報連携や小中連携教育を通して、学習面・生活面で共通の課題の把握や改善のための取組を進める。

ア) 学習指導に関する連携推進

教科の円滑な接続や家庭学習の習慣化、キャリア教育を推進し、学習意欲や基礎的・基本的な学力の向上、学習習慣の定着、社会的自立の基盤となる能力や態度を育てる。

成果目標	小中連携の学習指導の取組が進んだと評価する教員80%以上〔結果○97%〕
方 策	公開授業の実施による系統的な指導の充実、児童・生徒による交流活動の実施、9年間を見通した継続的なキャリア教育
成 果	府中市立学校の4つの視点を重視した学習指導を連携校で推進した。①外国語、②学力向上、③特別活動・学校行事の分科会で効果的な指導や教材を情報共有し、学習指導に生かすことができた。
課 題	授業参観や情報共有で各校の共通の課題を把握し、連携した取組をさらに進める。

イ) 生活指導の課題の共有と校区共通の取組推進

五地区サミット等を通じて、児童・生徒の学校・地域をよりよくしていこうとする意識を高め、規範意識の向上や配慮の必要な児童・生徒が落ち着いて学習活動に取り組める環境整備と指導方法の共通化を図る。

成果目標	小中連携の生活指導の取組が進んだと評価する教員80%以上〔結果○97%〕
方 策	挨拶運動や学校行事における連携、生活指導情報の共有と解決策の実施、配慮の必要な児童への指導方法の共有化
成 果	①生活指導、②特別支援教育、③体力向上・健康の分科会で取組を共有し、健全育成や基本的な生活習慣の確立に生かすことができた。情報モラルの指導やユニバーサルデザインを考慮した取組を進めることができた。
課 題	各校の共通の課題を把握し、改善の取組を進め、児童・生徒の意見を小中連携の取組に生かしていく。

② たてわり班活動による異年齢集団での望ましい人間関係の育成 (☆重点目標)

定期的なたてわり班活動で「ラララコンサート」「お楽しみ会」「地域清掃活動」を行い、高学年のリーダー性を高め、異年齢集団での望ましい人間関係を育成する。

成果目標	たてわり班活動による児童の心の成長を実感する教員80%以上〔結果○100%〕
方 策	たてわり班活動による児童の主体的な遊びや行事の充実
成 果	計画的なたてわり班活動で高学年が主体的に活動内容や関わり方を工夫し、思いやりやリーダー性の向上がみられた。児童の88%が自分のよさを認識することができた。
課 題	児童同士の関わりが深まるように、たてわり班活動の内容の充実を図る。

③ 学校生活の積極的な情報発信 (☆重点目標)

学校だより、学年だより(学年の窓)の充実とスマート連絡帳の更なる活用を図り、教育活動の様子を積極的に広報する。学校ホームページの積極的な更新と内容の充実等により、学校の指導方針や児童の成長の様子を分かりやすく発信し、保護者・地域との連携強化を図る。

成果目標	学校生活の様子が分かると感じる保護者85%以上〔結果▼80%〕
方 策	スマート連絡帳の活用、学校ホームページの積極的な情報発信
成 果	学校HPの学校日記の更新や宿泊行事の情報発信、スマート連絡帳の活用に努め、80%の保護者から学校生活が分かるとの肯定的な評価を得た。
課 題	学校HPの更新が滞ることがあったため、継続的に学校生活の様子を伝え、分かりやすい情報発信を工夫する。

8 今年度の学校評価結果（①児童・②保護者・③教員） 数値は%

〔①児童589名(2～6年) ②保護者452名(回収率:児童数の67%) ③教員28名(外国語に関する設問は、3年生以上の担任の回答を集計した)〕 ※文章による記述は、幾つかの項目の中から抜粋して行った。

(1)学校生活について 水色マーカー部分は令和7年度の目標値を下回ったもの

設問 1 ①いじめや仲間はずれをせず、友達となかよく生活している。 ②お子さんは、友達と仲良く過ごせていると思う。 ③いじめの未然防止・早期発見・解決につとめ、いじめのない学級づくり(学校づくり)ができています。							設問 2 ①みんなのきまりを守っている。 ②お子さんは、きまりを守って行動している。 ③みんなのきまりを守って子供たちに行動させている。						
単位%	肯定的評価		否定的評価		わからない		単位%	肯定的評価		否定的評価		わからない	
	R7	R6	R7	R6	R7	R6		R7	R5	R7	R6	R7	R6
児童	90	95	10	5			児童	88	96	12	4		
保護者	93	95	5	3	2	2	保護者	92	94	6	5	2	1
教員	100	100	0	0			教員	96	100	4	0		
設問 3 ①レベル5のあいさつや丁寧な言葉遣いをしている。 ②お子さんは挨拶がしっかりとできる子である。 ③レベル5のあいさつや丁寧な言葉遣いができている。							設問 4 ①自分にはよいところや得意なことがある。 ②お子さんは、自信をもって学校生活を送っていると思う。 ③児童の自己肯定感向上のため、3かけ(目・声・心)3ほめを徹底した。						
単位%	肯定的評価		否定的評価		わからない		単位%	肯定的評価		否定的評価		わからない	
	R7	R6	R7	R6	R7	R6		R7	R6	R7	R6	R7	R6
児童	79	80	21	20			児童	88	91	12	9		
保護者	84	86	14	13	2	1	保護者	82	85	15	10	3	5
教員	89	87	11	13			教員	100	100	0	0		
設問 5 ①やると決めたことややらなければいけないことを、最後までやりぬいている。 ②お子さんは、学習や課題に取り組む時、最後までやる抜くことができる。 ③子供たちの粘り強く取り組む力や、やりぬく力を育てることができている。							設問 6 ①学校は楽しい。 ②お子さんは、学校生活を楽しんでいると思う。 ③子供たちが楽しく学校生活を送れるよう、工夫して指導しその結果楽しく学校生活を送ることができている。						
単位%	肯定的評価		否定的評価		わからない		単位%	肯定的評価		否定的評価		わからない	
	R7	R6	R7	R6	R7	R6		R7	R6	R7	R6	R7	R6
児童	84	89	16	11			児童	82	87	18	13		
保護者	80	86	18	12	2	2	保護者	90	92	9	6	1	1
教員	93	100	7	0			教員	97	100	3	0		
設問 7 ①困っているときなどに先生たちは話を聞いてくれたり、励ましてくれたりして助けてくれる。 ②学校はお子さんの声に耳を傾け、親身になって受け止めようとしている。 ③学校は子供の声を受け止め、親身になって対応している。							設問 8 ③たてわり班活動を通じて、思いやりや協力する心を育てている。						
単位%	肯定的評価		否定的評価		わからない		単位%	肯定的評価		否定的評価		わからない	
	R7	R6	R7	R6	R7	R6		R7	R6	R7	R6	R7	R6
児童	90	91	10	9			教員	100	96	0	4	0	0
保護者	84	87	8	4	8	9							
教員	100	100	0	0									

設問3のあいさつについて、児童の肯定的評価は79%で昨年度より1%減少し、保護者の肯定的評価の84%を下回る。1昨年度よりもあいさつが向上してきているが、引き続き相手を見て、すすんで気持ちのよいあいさつができるよう、相手に伝わるあいさつの向上を図る。

設問5については、84%で昨年度より5%減少した。「たくましい子」を育成できるよう、めあてを達成したり解決したりする過程を大切に、個に応じた指導や支援を進め、粘り強い取組を引き出していく。

設問6については、82%で目標の85%を下回った。毎月の「心の健康観察」や児童の様子を丁寧に見取り、どの児童も学校生活が楽しいと感じられる学級経営や教育活動を工夫するよう努める。

設問7については、「目を掛け、声を掛け、心を掛けて育てる～相手意識に立った迅速・丁寧な対応」を全教職員が努力している。引き続き学校経営の柱として継続し、児童や保護者の困り感に丁寧に対応していく。

(2) 学習について 水色マーカー部分は令和7年度の目標値を下回ったもの

設問9							設問10						
①学習の準備(筆箱・下敷きも含む)や片付けをきちんとしている。							①毎日、家で学習する習慣(目安:学年×10分)が身についている。						
②お子さんは、身の回りの整理・整頓がきちんとできる。							②お子さんは、毎日家庭学習に取り組んでいる。(目安:学年×10分)						
③学習の準備(筆箱・下敷きも含む)や片付けができる。							③子供たちが意欲をもって家庭学習に取り組める工夫をしている。						
単位%	肯定的評価		否定的評価		わからない		単位%	肯定的評価		否定的評価		わからない	
	R7	R6	R7	R6	R7	R6		R7	R6	R7	R6	R6	R5
児童	83	85	17	15			児童	72	77	28	23		
保護者	43	54	56	45	1	1	保護者	70	71	30	29	0	0
教員	93	96	7	4			教員	100	87	0	13		
設問11							設問12						
①学校の授業がよく分かる。							①体を動かすことが好きで、進んで運動している。						
②お子さんは、漢字や計算力など学年の基本的な学習を理解している。							②お子さんは、体を動かすことを楽しみ、進んで運動している。						
③子供たちにとって分かりやすい授業をしている							③子供たちが学校生活の中で、進んで体を動かすよう、積極的に声をかけたり、学級遊びを工夫したりしている。						
単位%	肯定的評価		否定的評価		わからない		単位%	肯定的評価		否定的評価		わからない	
	R7	R6	R7	R6	R7	R6		R7	R6	R7	R6	R7	R6
児童	90	93	10	7			児童	81	79	19	21		
保護者	85	90	15	10	0	0	保護者	80	86	19	14	1	0
教員	89	92	4	8	7		教員	93	87	7	13		
設問13							設問14						
①外国語の学習に進んで取り組んでいる。							①まちのよさに気付き、大切にしようとしている。						
②お子さんは、外国語の学習を楽しみ、進んで取り組もうとしている。							②まちのよさを知り、大切にしようとする学習の機会を工夫している。						
③子供たちが進んで外国語の学習に取り組めるよう積極的に声をかけている。							③まちのよさを知り、大切にしようとする心を育む学習の機会を工夫している。						
単位%	肯定的評価		否定的評価		わからない		単位%	肯定的評価		否定的評価		わからない	
	R7	R6	R7	R6	R7	R6		R7	R6	R7	R6	R7	R6
児童	76	80	24	20	0		児童	90	91	10	9		
保護者	58	70	28	16	15	14	保護者	85	84	5	5	10	11
教員	81	74	19	26			教員	100	96	0	4		

設問15							設問16						
③支援計画に基づいて、計画的に特別支援教育に取り組んでいる。							③小中連携の取組を学習指導や生活指導に生かしている。						
単位%	肯定的評価		否定的評価		わからない		単位%	肯定的評価		否定的評価		わからない	
	R7	R6	R7	R6	R6	R5		R7	R6	R7	R6	R7	R6
教員	100	96	0	4	0	0	教員	97	91	3	9	0	0

設問9の学習の準備、身の回りの整理・整頓について、保護者の肯定的評価は、児童の肯定的評価を大きく下回っている。児童は、学習の準備や片付けを行っているつもりでも、保護者から見ると身の回りの整理・整頓ができていない状況が考えられる。家庭と連携し、準備や片付け、持ち物の管理ができるようにしていく。

設問10の家庭学習について、児童の肯定的評価は昨年度より5%減少し、十分に学習習慣が定着していない様子が見える。年3回の家庭学習週間とノースクリーンデーの方法や課題の工夫を継続していく。

設問11については、児童の90%が肯定的な評価をしており、「自立した学び手の育成」をテーマにした校内研究や府中市立学校のグランドデザインの4つの視点を重視した授業改善の成果が考えられる。今後も分かりやすい授業づくりを積み重ねていく。

設問14については、創立70周年の取組と関連させ、まちのよさを知り、まちを大切にしようとする学習の機会を工夫した。児童からは90%以上、保護者からは85%の肯定的評価を得た。次年度以降も学校と地域の歩みを学ぶ機会を充実させ、地域を大切に思う児童の育成に努める。

設問16については、全教員が取組を充実させられるように努めていく。

(3) 学校運営などについて 水色マーカー部分は令和7年度の目標値を下回ったもの

設問17							設問18						
②③学校は、保護者や地域の要望に迅速に対応している。							②ご家庭に必要な情報が学校から提供されている。 ③学校は保護者に必要な情報をきちんと提供している。						
単位%	肯定的評価		否定的評価		わからない		単位%	肯定的評価		否定的評価		わからない	
	R7	R6	R7	R6	R7	R6		R7	R6	R7	R6	R7	R6
保護者	78	73	5	8	17	19	保護者	80	83	15	12	5	5
教員	100	100	0	0	0	0	教員	100	91	0	9	0	0

設問19						
②学校は児童の安全(火災や地震、不審者への対応など)について配慮できている。 ③学校は児童の安全(火災や地震、不審者への対応など)について配慮できている。						
	肯定的評価		否定的評価		わからない	
	R7	R6	R7	R6	R7	R6
保護者	93	91	2	5	5	4
教員	100	100	0	0	0	0

設問17の保護者・地域の要望への対応は、保護者と教員の評価に差があり、分からないとの回答も17%あるが、肯定的評価が5%向上した。要望に応じて、引き続き丁寧で迅速な対応に努めていく。

設問18について、学校だよりや学年の窓などの紙面提供に加え、スマート連絡帳による速やかな配信や学校ホームページによる情報発信に努めてきた。更新が滞らないよう分かりやすい情報提供に努めていく。

設問19の安全管理では、保護者から93%の高い肯定的評価を得た。保護者との情報連携、行動連携を充実させていきたい。

9 予算の活用状況 3月中旬までの執行状況

(1)府中市「学校経営支援予算」について

配当額 8,241,680円（エデュケーションアシスタント 1,543,680円）

（時給単価上昇による年度途中増額分を除く）

	担当名	配当割合	執行割合	執行金額
1	エデュケーションアシスタント(1年 校務補助)	77%	90%	1,442,820円
2	学習支援員1名(3年・4生算数TT)		100%	639,400円
3	学習支援委員(日本語指導)		100%	639,400円
4	生活指導支援員1名(学級支援、児童の相談役)		100%	250,200円
5	特別支援支援員1名(学級支援、児童の相談役)		99%	636,620円
6	特別支援支援員1名(学級支援、児童の相談役)		100%	639,400円
7	学校図書館支援員1名(図書室整備、担任指導補助)	11%	100%	757,550円
8	サポートルーム支援員	22%	97%	868,750円
9	サポートルーム支援員		100%	278,000円
10	サポートルーム支援員		100%	312,750円

【取組と自己評価】

算数TT指導については、経験豊富な支援員を配置し、主に少人数算数担当教員の補助に当たった。成果として、児童の学習状況を把握し、個別に支援が必要である児童に対して、きめ細かな指導を行うことができた。今後も、指導に当たった支援員と担任が児童の学習の様子について情報共有を図り、個に応じた学習の進め方を充実させていく。

学校図書支援員は、メディアセンター(新図書館)の開設に合わせ、図書室の図書管理及び整備を行い、充実した児童の学びに向けた学習環境を整えた。また、学級担任と連携を図り、読み聞かせや、各教科の学習で必要としている資料等を提供するなどの活動を行い、年間を通して計画的に学習を支援することができた。今後は、担当教員との連携を一層深め、読書旬間等、学校全体での読書活動をさらに充実させていく。

生活指導支援員は、個別に支援を必要とする児童の支援を学級で行った。児童に近い存在として、相談に乗ったり、授業中の学習活動を支援したり、休み時間にそばで見守ったりした。担任と連携を図り、児童が安心して学校生活を過ごしていくための環境づくりを構築していく。

サポートルーム支援員は、教室で学習することが困難な児童や、登校に支援が必要な児童に対し、安心して登校し、自分のペースを大切にしながら学習に取り組むことができるように支援を行った。全ての子供たちが安心して登校し、学校で学習に取り組むことができるよう、保護者・担任、特別支援教育コーディネーターやスクールカウンセラー等との連携を深め、今後もより充実した支援体制を構築していく。

(2) 府中市「副校長等校務改善支援事業予算」について

配当額 2,246,400 円 (学校マネジメント支援員 1,123,200 円)

(※時給アップによる年度途中増額分を除く)

	担当名	配当・執行割合	執行金額
1	学校マネジメント支援員	870 時間/91%	1,070,100 円
2	校務改善支援 1 名 (令和5年4月より継続勤務)	695 時間/95%	854,854 円
3	校務改善支援 1 名 (令和2年4月より継続勤務)	175 時間/78%	215,250 円
○業務内容 ・副校長事務補佐・校舎職員室環境整備・諸帳簿整理・資料整理(ファイリング) ・学習支援員等予算事務・調査報告事務・印刷事務			

【取組と自己評価】

副校長の多岐にわたる業務を補佐し、勤務時間の削減に大きく貢献した。また、副校長と各学校経営支援員の業務内外における円滑な連携を支える重要な役割を果たした。今後は、校務支援のさらなる効率化を図っていく。

(3) 『未来へつなぐ 2020 レガシー』に係る予算について 配当額 100,000 円

○需用費 85,000 円 ○備品 11,645 円 執行率 97%

【取組と自己評価】

地域人材を効果的に活用し、各種専門的な講師を招聘し、児童が日本や世界の伝統文化を体験的に充実した学びをすることができた。

(3年生 お囃子体験 4年生 お箏体験 6年生 茶道体験)

(4) 東京都「学校と家庭の連携事業予算」について 配当額 383,040 円

	担当名	配当・執行割合	執行金額
1	支援員 1 名	99%	379,080 円

【取組と自己評価】

サポートルーム支援員と連携を図り、友達との関わりや学校生活への不安、学習への困り感をもつ児童に寄り添い、きめ細かい声かけや支援を行ってきた。取組により児童の不安が軽減し、安定して過ごす場面が多く見られるようになった。今後も保護者との連携を図り、登校支援の充実を図る。

【総括:1年間を終えて】

府中第六小学校学区は学校教育に関心が高く、協力的な保護者・地域である。新校舎での教育活動が始まり、創立70周年を迎えた今年度は、70周年スローガンや70周年キャラクターを児童から募集し、未来へつながる新たな一步を力強く踏み出せるよう、教育活動を進めてきた。

スポーツフェスタや航空写真撮影、「ようこそ先輩」スペシャル事業、バルーンリリース、70周年記念集会、70周年記念式典、70周年記念展覧会。様々な取組を実施できたのは、児童はもちろん、70周年記念事業実行委員会や保護者・地域の皆様、本校を支援してくださる多くの方々と教職員の尽力による。まちのよさに気付き、大切にしようとする心の育成について肯定的な評価を高きいただいたのは、本年度の成果と捉えている。

教育目標の重点目標「自分で学ぶ子」の育成では、授業がよく分かると肯定的に回答した児童は90%であるが、家庭学習習慣や学習の準備についてさらに定着を図る必要がある。また、「仲よく助け合う子」の育成では、友達と仲良く生活している児童は90%であるが、学校は楽しいと感じる児童は82%であり、一人一人が安心して生活できる学級づくりや個に応じた支援をさらに工夫する必要がある。

新校舎で2年目を迎える次年度は、今年度の成果と課題を踏まえ、児童の思いや願いを基に本校の教育活動をさらに充実・発展できるよう、校長として力を尽くしていく所存である。